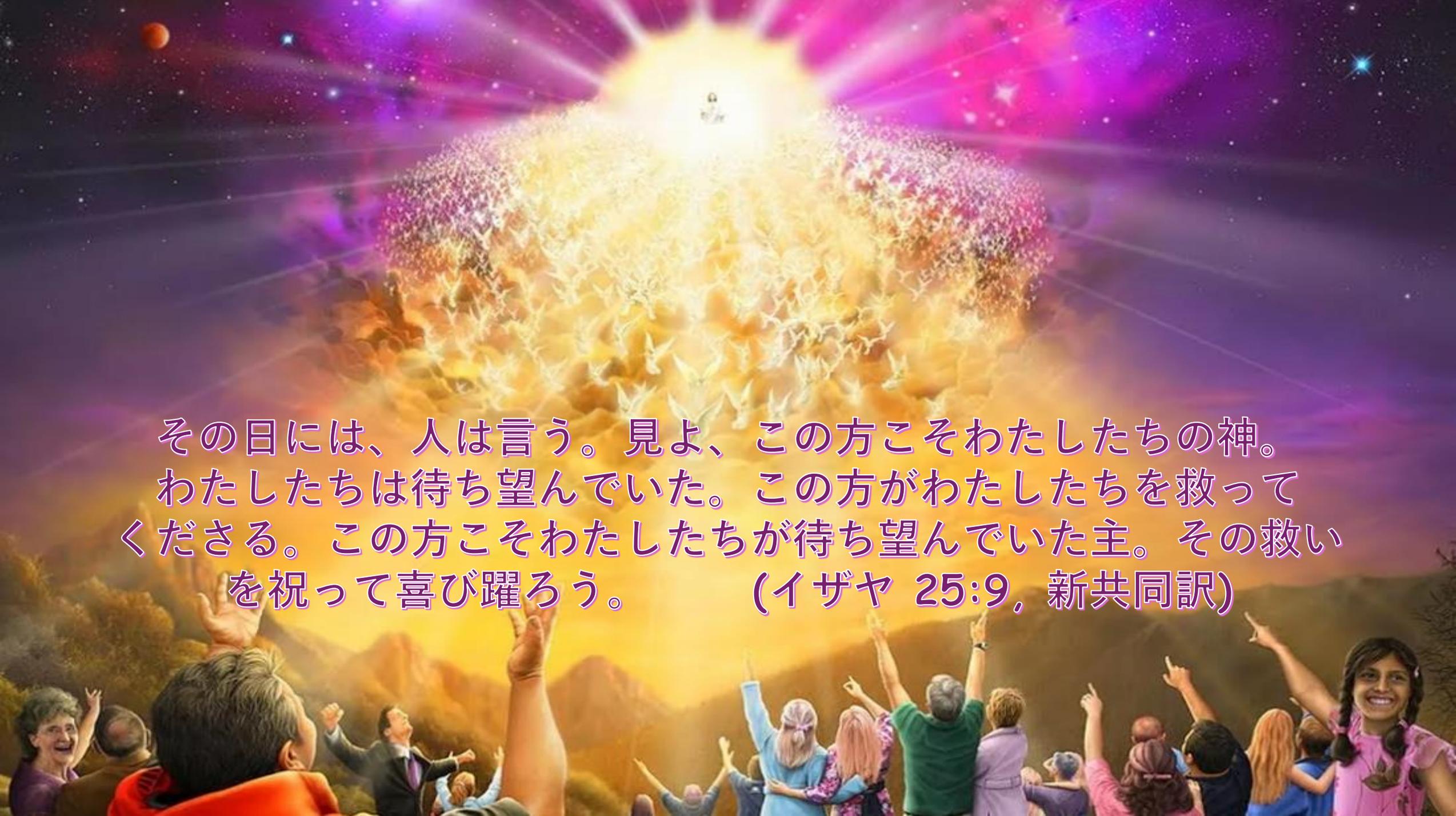


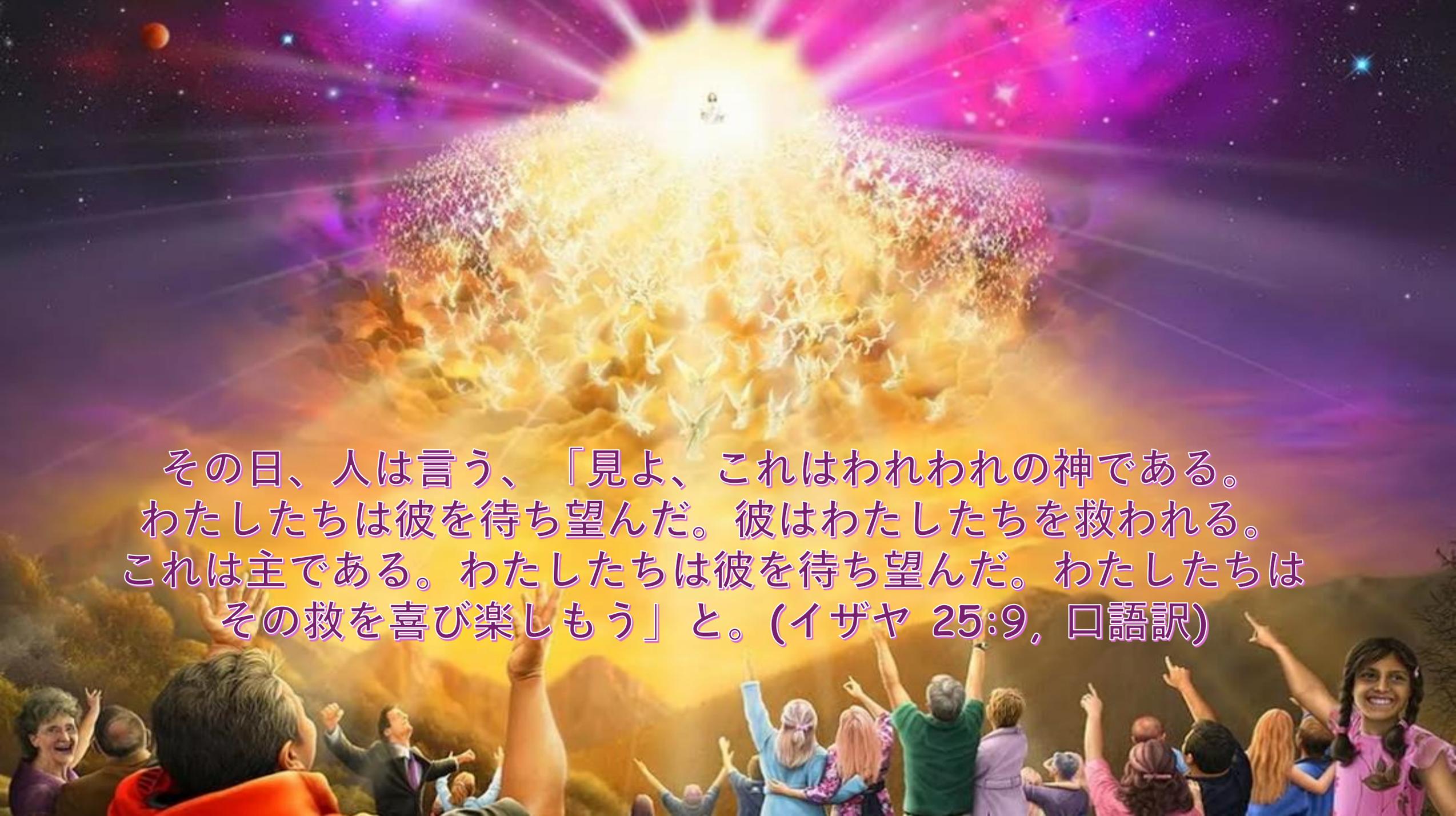


希望に  
突き動かされて

2024年5月18日 第7課



その日には、人は言う。見よ、この方こそわたしたちの神。  
わたしたちは待ち望んでいた。この方がわたしたちを救って  
くださる。この方こそわたしたちが待ち望んでいた主。その救い  
を祝って喜び躍ろう。 (イザヤ 25:9, 新共同訳)



その日、人は言う、「見よ、これはわれわれの神である。  
わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる。  
これは主である。わたしたちは彼を待ち望んだ。わたしたちは  
その救を喜び楽しもう」と。(イザヤ 25:9, 口語訳)



預言的な出来事が展開するにつれ、世界中の人々がイエスの再臨が間近に迫っていることを聖書から調べ、説教し始めた。

その中には、ドイツのヨハン・アルブレヒト・ベンゲル（1687-1752）、チリのマヌエル・ラクンザ（1731-1801）、北米のウィリアム・ミラー（1782-1861）、アフリカ、エジプト、アビシニア、アジア、パレスチナ、シリア、ペルシャ、ウズベキスタン、インドにメッセージを伝えたジョセフ・ウルフ（1821-1845）などがいる。

彼らも、それ以前に書かれた他の人たちも、同じ結論に達した：イエスは19世紀半ばに再臨する！

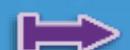
 再臨:

 祝福された希望

 イエスはどのように来られるのか？

 ウィリアムミラー:

 どのように聖書を解釈したのか？

 預言の期間

 2,300日の預言

# 再臨

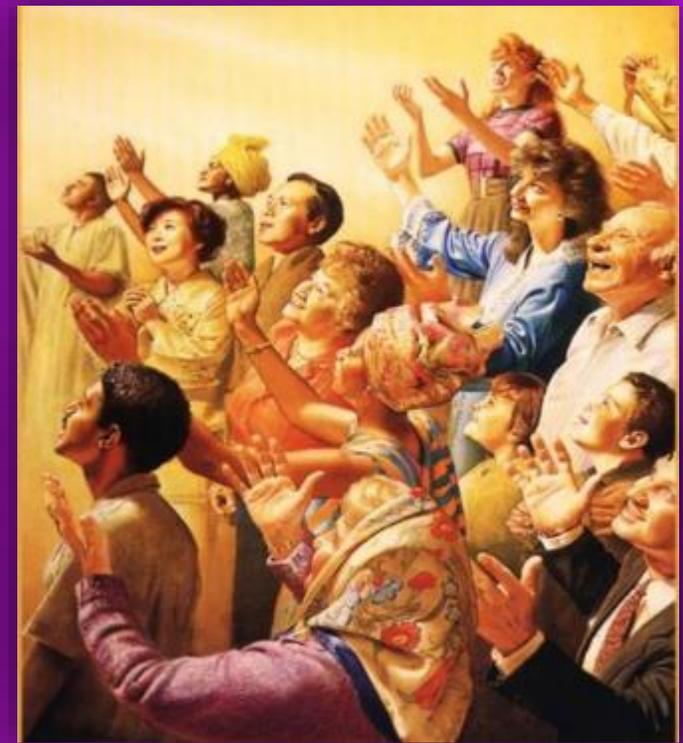


# 祝福された希望

また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。(テトス 2:13)

イエスは再臨を約束されたので(ヨハ14:1-3)、これは今日に至るまで、すべての信者の希望となっている(テト2:13)。

この希望は、ローマ・カトリック教会の信条にも、正教会の信条にも反映されている。また、英国国教会でも教えられており、ルターやカルヴァン、その他の改革者たちもそう教えている。



イエスの再臨がこれほど待ち望まれるのはなぜか。



病気、苦しみ、  
死の終わりを  
告げる



それは貧困、  
不正、抑圧の  
終焉を意味する



戦い、紛争、  
戦争を終わら  
せる



平和と幸福、そし  
て神との永遠の  
交わりの世界へ  
の扉を開く

(日)

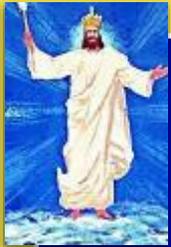
キリストの再臨は、あなたの生活において  
どれ程の重要性がありますか？

# イエスはどのように来られるのか？

稲妻が東から西へひらめき渡るように、人の子も来るからである。(マタイ 24:27)

19世紀、プロテスタントは再臨の教理を歪曲し、イエスは千年の平和の地上王国を樹立する（千年王国説）、あるいは再臨の前に千年の平和の時代がある（千年王国説）と教えた。

しかし改革派は、千年王国には再臨が先立つと説いた：



**文字通り：**「然り、わたしはすぐに来る。」(黙 22:20)



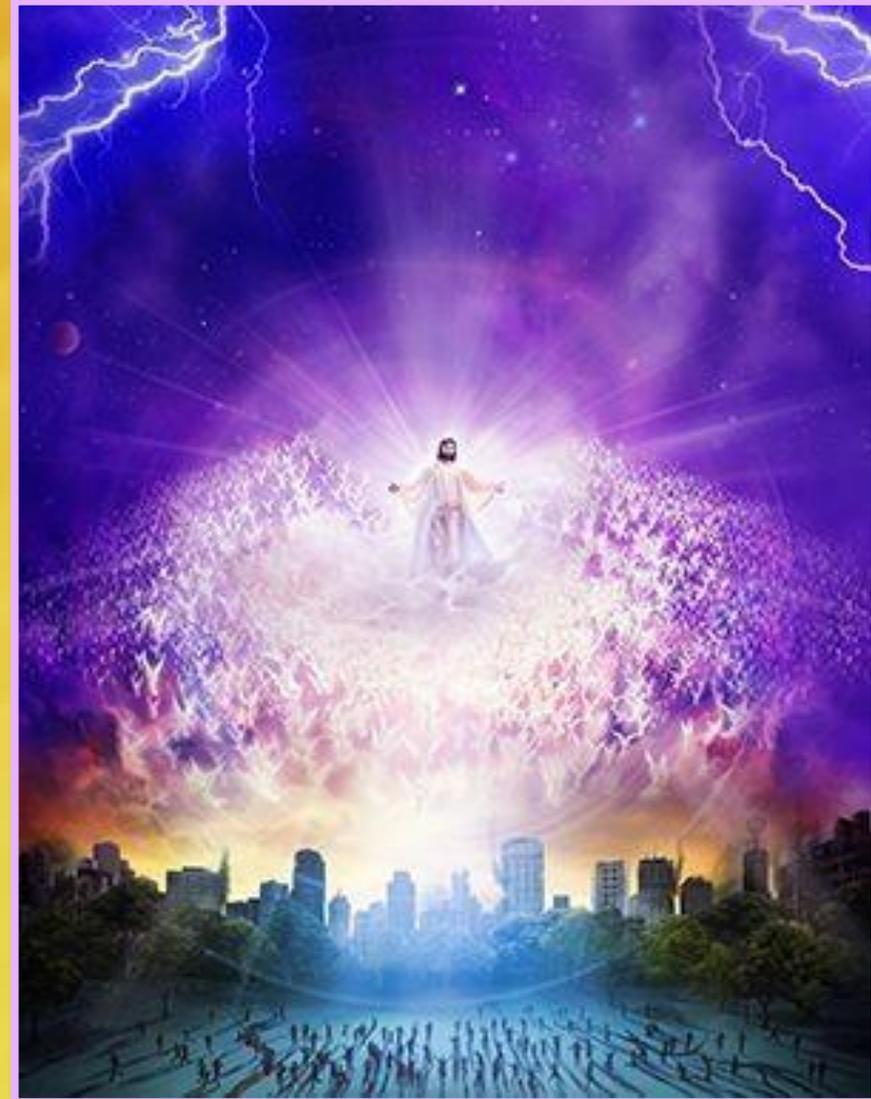
**目に見える形で：**すべての人が彼を見る  
(黙 1:7、マタ24:27)



**聞こえる形で：**命令と、大天使の声と、神のラッパをもって。(1テサ 4:16; 1コリ 15:52)



**栄光の姿へ：**死者は復活し、生者は変容し、朽ちない体となり、私たちは主とともに昇天する。  
(1テサ 4:13-18、1コリ 15:51-55)



(月)

キリストの再臨に備えるため、  
あなたが今日できる最善のことは、  
何だと思いますか？

A painting of a man in a dark suit and white shirt, sitting at a desk. He is looking towards the right. On the desk, there is a vase with white and purple flowers, a book, and a small object. The background is a soft, hazy landscape. The overall color palette is muted, with a lot of greens and browns.

# ウィリアム・ ミラー

# どのように聖書を解釈したのか

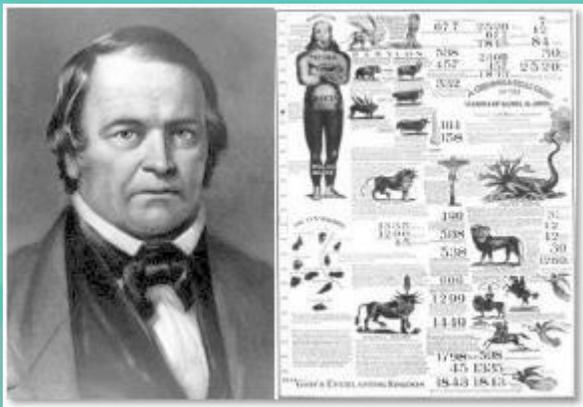
「ツァウ・ラ・ツァウ、ツァウ・ラ・ツァウ / (命令に命令、命令に命令) / カウ・ラ・カウ、カウ・ラ・カウ / (規則に規則、規則に規則) / しばらくはここ、しばらくはあそこ」と / 彼らは言う。” (イザヤ 28:10)

イザヤ (イザ28:9-10) の言葉に基づき、ウィリアム・ミラーは聖書を自分の解釈者とすることを決意した。

創世記から始めて、彼はすべての聖書箇所を研究した。その意味が明確でない場合は、他の聖書箇所での解決策を探した。

こうして聖霊は、聖書が彼の前にはっきりと開かれるまで彼を照らした。

預言的な文章にたどり着いたとき、彼は同じ原理がそこにも適用できることを発見した：



聖書解釈にこれらの原則を適用したとき、ミラーは新しい意味を発見して驚いた。



獣は王国を象徴する  
(ダニ 7:17, 23)



風は滅びを表す  
(エレ 49:36)



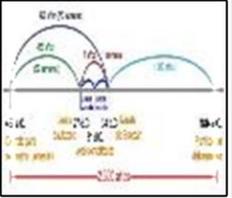
水は群衆を表す  
(黙 17:15)



女性は教会を表す  
(エゼ 23:4、2コリ 11:2)



日は文字通りの年  
(民 14:34、エゼ 4:6)



(火)

なぜ、農夫であり、典型的な一信徒といえる

ウィリアム ミラーに、

大いなる使命が託されたのでしょうか？

あなたには、どのような使命が  
託されていると、思いますか？

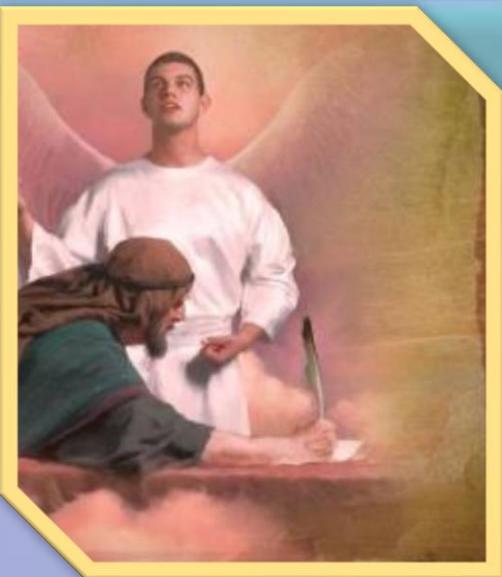
# 預言の期間

彼は言った、「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」。(ダニエル 8:14 口語訳)



ミラーの時代には、地球は聖域であると考えられていたことを考慮し、彼はその浄化に関する預言（ダニ8：14）がイエスの再臨の時を示していると推論した。

彼は、ガブリエルがダニエルにビジョンの詳細をすべて説明したことを指摘した：



雄羊= メディアとペルシャ (ダニ 8:20)



雄山羊 = ギリシャ (ダニ 8:21上句)



折れた角= アレキサンダーとその後継者たち (ダニ 8:21下句-22)



小さな角= ローマ、その政治的・宗教的段階において (ダニ8:23-25)



しかし、2,300日という日数は説明されないままであった。(ダニ 8:26-27)

数年後、ガブリエルは再び遣わされ、ダニエルにその点を説明した（ダニ9:21-23）。ガブリエルは、ある期間、すなわち「断ち切られた」期間があり、それは「エルサレムを回復し建設する命令が下される」ことから始まると説明した（ダニ9:24-25）。もしミラーがこの命令を見つけるなら、彼は2,300日／年の始まりを見つけるだろう。

(水)

旧約聖書において預言者によって予告された  
できごとが正確に成就したにもかかわらず、  
当時のイスラエルの民のうち大部分が、  
その予告を理解せず、  
日々の希望としなかったのは、  
なぜでしょうか？

# 2300日（年）の預言

エズラよ、ゆだねられた神の知恵によってあなたは治める者と裁く者を任命して、ユーフラテス西方のすべての民、あなたの神の律法を知るすべての者を治めさせ、律法を知らない者にはあなたたちは教えを授けよ。（エズラ 7:25）

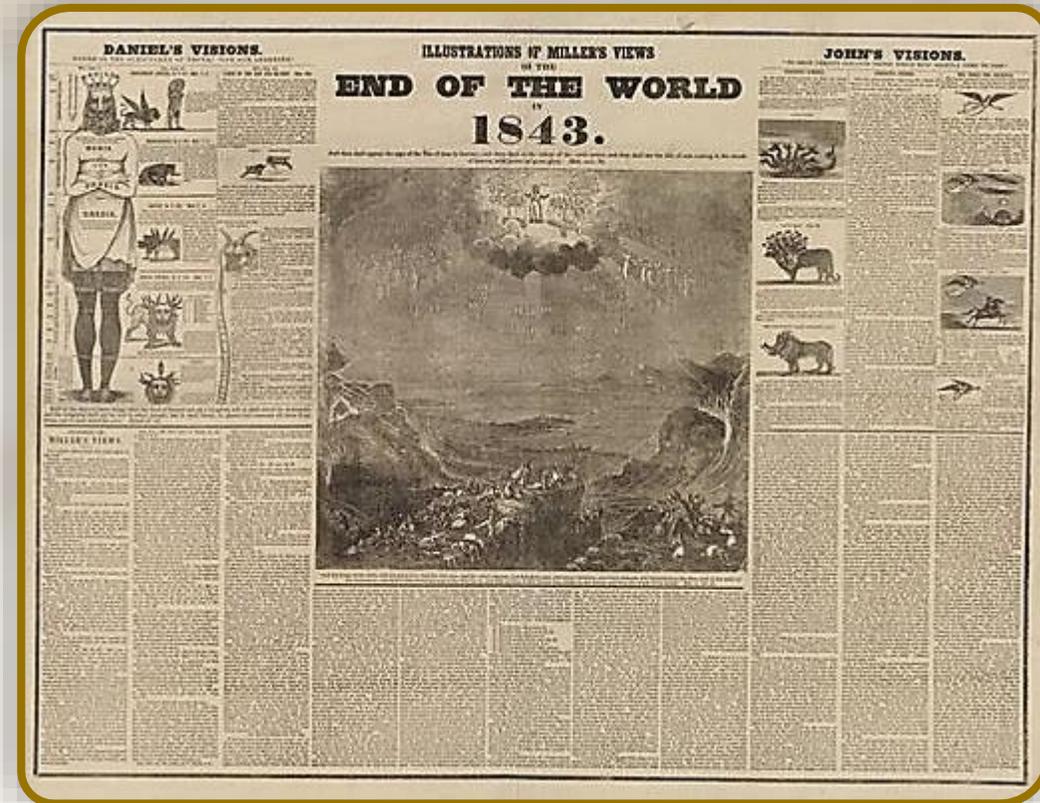


ペルシャ王アルタクセルクセスの7年目に、エズラがエルサレムに行き、エルサレムの復興を成し遂げるのに十分な政治的自治権を持つようにとの命令が出された（エズ7:7, 11-14, 20-21, 24-25）。紀元前457年のことである。

70週の預言が示すように、エルサレムが完全に再建されるまで49年かかり、メシアの到来までさらに434年が経過した（ダニ9:25）。この計算では、イエスのバプテスマは紀元27年、70週の終わりは紀元34年となる。

預言者暦の断片を組み合わせて、ミラーはイエスの再臨は1843年のいつかであると結論づけた。

歴史に"ゼロ"の年はないということが考慮されていなかったことが判明した後、イエスは1844年に到来すると決定された。



# 2300日（年）の預言

お前の民と聖なる都に対して／七十週が定められている(ダニエル 9:24上句)

「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」。



(木)

ウィリアム ミラーと、  
預言の誤った理解による失望を経験した  
私達の教会の最初の指導者の経験から、  
あなたは何を学ぶことができますか？

「聖書に啓示された最も厳粛で、最も輝かしい真理の1つは、キリストが、贖罪の大きな業を完成するためにふたたび来られるという真理である。長い間、「死の地、死の陰」をたどってきた神の旅人たちにとって、「よみがえりであり、命で」あり、「追放されたものを帰らせ」られる主の出現の約束は、尊く喜びに満ちた希望であった。キリストの再臨という教義は、聖書の基調そのものである。」



「私たちがしなければならないのは、この1日だけだ。今日、私たちは信頼に忠実でなければならない。今日、私たちは心を尽くして神を愛し、隣人を自分のように愛さなければならない。今日、私たちは敵の誘惑に抵抗し、キリストの恵みによって勝利を得なければなりません。こうして、キリストの到来を見守り、待ち望むのである。私たちは毎日、今日がこの地上での最後の日になると知っているかのように生きなければならない。もしキリストが明日来られると知っていたら、今日一日、できる限りの親切な言葉や無私の行いをするのではないだろうか。」